

25日 火曜

Ⅱ サムエル



9:1 ダビデは言った。「サウルの家の者で、まだ生き残っている人はいないか。私はヨナタンのゆえに、その人に真実を尽くしたい。」

9:2 サウルの家にツィバという名のしもべがいて、ダビデのところに呼び出された。王は彼に言った。「あなたがツィバか。」彼は言った。「はい、あなた様のしもべです。」9:3 王は言った。「サウルの家の者で、まだ、だれかいらないか。私はその人に神の恵みを施そう。」ツィバは王に言った。「まだ、ヨナタンの息子で足の不自由な方がおられます。」

9:4 王は彼に言った。「その人は、どこにいるのか。」ツィバは王に言った。「お聞きください。ロ・デバルのアンミエルの子マキルの家におられます。」

9:5 ダビデ王は人を送って、ロ・デバルのアンミエルの子マキルの家から彼を連れて来させた。

9:6 サウルの子ヨナタンの子メフィボシェテは、ダビデのところにきて、ひれ伏して礼をした。ダビデは言った。「メフィボシェテか。」彼は言った。「はい、あなた様のしもべです。」

9:7 ダビデは言った。「恐れることはない。私は、あなたの父ヨナタンのゆえに、あなたに恵みを施そう。あなたの祖父サウルの地所をすべてあなたに返そう。あなたはいつも私の食卓で食事をすることになる。」

9:8 彼は礼をして言った。「いったい、このしもべは何なのでしょう。あなた様が、この死んだ犬のような私を顧みてくださると

は。」

9:9 王はサウルのしもベツィバを呼び寄せて言った。「サウルと、その一家の所有になっていた物をみな、私はあなたの主人の息子に与えた。」

9:10 あなたも、あなたの息子たちも、あなたの召使いたちも、彼のために土地を耕し、作物を持って来て、それがあなたの主人の息子のパン、また食物となる。あなたの主人の息子メフィボシェテは、いつも私の食卓で食事をすることになる。」ツィバには息子が十五人と召使いが二十人いた。

9:11 ツィバは王に言った。「わが主、王がこのしもべに申しつけられたとおりに、このしもべはいたします。」メフィボシェテは王の息子たちの一人のように、王の食卓で食事をするようになった。

9:12 メフィボシェテには、ミカという名の小さな子がいた。ツィバの家に住む者はみな、メフィボシェテのしもべとなった。

9:13 メフィボシェテはエルサレムに住み、いつも王の食卓で食事をした。彼は両足がともに萎えていた。

ダビデはヨナタンとの約束のゆえに、そのこメフィボシェテを優遇しました。その扱いが慈愛に満ちたものなので、ダビデの篤い思いわかります。メフィボシェテはダビデを殺そうとしたサウル家の子孫ですから、古代では殺されても普通でした。しかしただ王の愛によって、回復し、まるで王子のような扱いを受けたのです。

これはまさに救われた私たちを思い起こさせます。滅ぼされて当然の者が、救われて王子のように神の子とされたのです。私たちもこのような救いに感謝し、王宮のように主とともにある生活を楽しみましょう。そしてメフィボシェテのように、

あくまでも謙遜になって、主の前に出ましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

